西東京市市民協働推進センター

平成２４（２０１２）年度第８回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２４年１２月１８日（火）　午後７時～８時３５分
■開催会場：イングビル３階　第１会議室
■出席委員：有賀委員、有馬委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、田辺委員、徳永委員、原委員、宮崎委員、吉田委員
＜以上１０名、五十音順＞
■事 務 局：内田センター長、北村、丸木地域福祉課長

１．報　告　事　項

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

事務局より１１月のＨＰアクセス数、市民活動団体登録状況、相談状況、職員の採用の報告があった。

委員長：登録団体が通し番号で１００団体（実質９９団体）はかなり多いと思うが、西東京市のＮＰＯの何割が登録しているか知りたい。

事務局：ＮＰＯで言えば半数くらいと認識しているが、確認して次回報告する。

委　員：ＨＰのアクセス数の考え方を次年度考えましょうというのが前に議題にあがっていたが、４月はすぐなので、そろそろ検討しないといけないのではないか。

委員長：確かにアクセス数を載せている以上、何か使えないかという意見が以前から出ていた。どういう分析ができるか、どういう情報があって、何を載せるかによって取り扱いが変わる。次年度に向けて、有効に活用する為、量的だけでなく、質的なところを抑えられると良い。議題が混んでいない時に一回議題にあげていただければありがたい。

２．１２月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

事務局より１２月以降の３件の実施事業報告があった。

委員長：協働に関する情報収集勉強会②の状況について参加した運営委員に教えて欲しい。

委　員：ゆめこらぼが社会福祉協議会の中にあることをどう考えていくか、運営委員会の役割に対する疑問がでた。最後は次に繋がる終わり方をした。

委　員：社協の中のひとつの機関としてゆめこらぼがあるというのは違うのではないか。

事務局：社協の機関としてゆめこらぼがあるということではなく、協働を進めるうえで社協の活動や人材を活用していきたいという思いでの発言である。

委　員：事例集に選ばれた基準に疑問があり、市に問い合わせたところゆめこらぼで選んだとの回答があったとの指摘があった。

委員長：事例集については何を基準に団体を選出したかを明確にしていくことに拘ると事例集を作成する事自体難しくなる。西東京として取り組みがわかるようなものとして選抜したと記憶している。

事務局：選択基準を定めてそれに則って選択した事例集を作成するのではなく、読み物として作成するものと運営委員会で決定した。

委員長：事例集に選んだ団体が西東京の代表のものではなく、サンプリングとして選択したものではない。他に無いか。

委　員：フェスティバルが２会場になるが、機能をどのように分けるのか。

事務局：従来ＮＰＯが発表する場しかなかったが、多くの市民に知ってもらうため、公民館での子ども関係の催しものやスタンプラリーの最終地点をゆめこらぼとするなど知名度をあげたい。

委員長：行政職員と市民活動団体の懇談会の進め方にプランはあるのか。

事務局：今回は防災を念頭に置き地域安全とまちづくりの分野で登録しているＮＰＯを対象に声をかける。また、それに関連する部署には市側から声をかけてもらう。

委員長：懇談会は行政と接点をもてる意味では非常に重要な取り組みである。昨年の課題点を修正し、運営の仕方、方向性を詰めてもらいたい。

委　員：声をかけるのは何団体か。

事務局：まだ正式に決まっていない。

委　員：行政側の関係部署がより出席してもらえるよう要請してもらいたい。

委　員:フェスティバルに田無工業高校のバンドが出演するようだが、田無地域には音を出せる施設が少ない。田無公民館の視聴覚室と会議室、調理室などがあるが、そこに予約が集中してしまう。その場をＰＲして学校に周知し、保谷の方は盛んだから、このようなイベントに出演してもらうと新しいものになると思う。

委員長：ロックバンドなども出演すると思うが、音楽を通じて若い高校生にも広がりを作り、西東京市の取り組みも知ってもらう良い機会だと思う。当人たちは自己満足だけではなくて、社会的な視点を持ってもらうとありがたい。高校生が参加するのは初めての機会なので、成功してもらいたいと思う。

委　員：賛成反対の議論は別として、気になる点がある。何を対象にするかというとＮＰＯが対象になるだろう。若い高校生たちばかりが集まって、バンド参加して盛り上がるのはどうなのかと思う。例えばシルバーの人たちのバンドが参加すると、市民活動団体が市民と関わることができる。しかし、ゆめこらぼと全く関係のない高校生を呼ぶなら、キッズダンスでも何でも良いということになる。ゆめこらぼは何をやる所なのか、はっきりしないと良くないと思う。秋の文化祭でやるようなものと同じなら、意味がない。人を呼び込んでＰＲすることばかりに焦点を絞り込むと、違和感が発生しないか。

委員長：確かに本質的な意味が融解してしまうことはあるかもしれない。ただやってみても良いのではないかと思うのは事実。バンドが何のために出てくるのかは意識しても良い。田無工業高校の学生側からすると、お披露目するだけでなく、その会そのものがＮＰＯや市民活動につながるという取り組みの中で、わかってもらうのは良いと思う。

事務局：バンドだけで考えているのではなく、まちづくりや防災の観点では、将来的に高校生が力になってくれると期待している。彼らを巻き込んでいくという関係作りの一歩と考えている。

委員長：学生からすると披露する場がある。例えばキッズダンスなどは出演が終わると、観客もいなくなるというのは、確かに前から違和感があった。しかし他のイベントも見ようと思う人が少しでもいると、このセンターでやる意味があると思う。

２．審　議　事　項

１．平成２４（２０１２）年度第７回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録について

委員長：何か質問はあるか。なければ第７回の西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録（未定稿）は確定稿とする。

３．協　議　事　項

１．　平成２５年度　西東京市市民協働推進センター　運営委員会委員候補者名簿（案）

事務局：来年度の運営委員の方の候補者を挙げている。来年３月で９名が任期満了となる。任期１年目の方、再任可能な６名の方には継続していただきたい。任期満了でも再任できる委員長以外は新たに委員を選出する必要がある。活動領域を参考にして、リストアップした。ＮＰＯ、ＮＧＯ、ボランティア関係の人たちから、多文化、環境、子育て、福祉、まちづくり。ゆめこらぼに登録していない団体からも挙げている。また、企業や労働組合、青年会議所、学識経験者、公募市民などから選出したい。次期委員長については現委員長・副委員長と相談したい。社会福祉協議会では２月に付議予定となっている。

委員長：センターは来年４月で５年目に突入する。運営委員は２期はできるが３期目は務められない。６名の委員の方には継続してもらいたい。それ以外の委員は来年３月で最後になる。資料にある候補者はまだ打診していない。活動領域の中で選出した方がいいのか、地域で力がある人がいれば推薦してもらいたい。

委　員：事実確認をしたい。社会福祉協議会にかけるのは委員長（担当理事候補者）だけなのか。運営委員会は定員があるのか。

事務局：社会福祉協議会にかけるのは委員長だけ。運営委員は１１人から１５人である。

委　員：表の１０枠全部選んでしまうと定数を越えてしまう。

事務局：あくまでも候補なので、この中から何人かを選ぶということである。

委　員：現委員の中には、人として選出されており、連続３期できないというルールは適用されないという人もいるのではないか。このルールは所属に適用されるのか。

事務局：人に適用される。

委員長：であれば、他にも同様の人がいる。
委員長：大規模に変わってしまうと運営にも影響がでるので、規定で残れる方があるであればお願いしたい。
委　員：ＮＰＯ・ＮＧＯ・ボランティア関係者などのジャンル分けは規則上あるのか。
事務局：設置規則第二条中に定められている。
委：員：ジャンル分けに関して人数の割り当てはあるか。
事務局：ない。
委　員：行政・教育機関の枠で選ばれている人は現在いないという理解でいいか。
事務局：その枠ではいない。
委　員：逆に言うと、すべてのジャンルを埋めなくてもいいということか。
事務局：現在行政・教育機関だけいない。
事務局：委員長と副委員長と相談しながら次期委員長については検討したい。運営委員会で社会福祉協議会のボランテイア活動、市民活動を推進していくための担当理事の候補者を選んでもうことになる。期限が２月である。運営委員会で候補者の中から選出してもらい、理事監事選考委員会に諮ることになる。あらたな理事会が開かれたとき担当理事として選任される。
委員長：最終的には事務局と委員長と副委員長で次期の委員長を選出する事を承認してもらいたい。
事務局：次回の運営委員会で公表させてもらう。
委　員：運営委員候補に小さい子どもがいる場合保育は付けられるのか。
事務局：候補の一人は社会福祉協議会において他の委員をしてもらっているが夜間の会議ではお子様連れで参加してもらっている。場合によっては保育の手配も検討もする。
委員長：他に運営委員に推薦する方はいないか。個別にでも事務局へ連絡して欲しい。
事務局：表に載っている方に対しては順次事務局が声を掛けていって良いか。
委　員：未登録のカテゴリーで運営委員を選ぶ意味を教えてほしい。
事務局：未登録の団体の方にも参加していただくことで理解を深めることができるのではないかと考える。但し、他よりは優先順位は低いと考えている。
委　員：未登録の団体は福祉関係ばかりなのでバランスよく選んでもらいたい。
委員長：未登録であっても環境、多文化などバランスを検討してもらいたい。
委　員：未登録団体は優先順位が低いとのことなら、納得した。登録団体での選出がベターだが、それが叶わない場合、未登録団体に声をかけるという整理でいいか。
事務局：ここの場で決めていただきたい。
委　員：趣旨は解るが、強弱はあると思う。
委員長：もしも登録団体で選出できなければ、未登録団体に協力を願うということであれば、あってもいいのではと思うが如何か。
委　員：未登録というジャンルを積極的にいれるのか。
事務局：９名が変わってしまうという前提もあっての提案だが、７名がマックスということであれば、そこまで広げる余裕はおそらくなくなるのではないか。
委　員：こういった分類（登録、未登録）ではなく、活動分野でバランス良く選出した方が良いのではないか。
委　員：未登録という分野をなくしたら良いと思う。
委　員：未登録団体の意見を取り入れるのも大事だが、先ずは登録団体でバランスよく選出し、叶わなければ未登録団体にも枠を広げるということで、どうか。
委員長：未登録という枠自体が違和感があるという意見が中心だったことを踏まえて対応してほしい。
委　員：広く意見を求めるのは大事だが、未登録団体に積極的に声をかけるのは違和感がある。
委　員：まちづくりというカテゴリーに違和感がある。何でもまちづくりになるマジックワードである。その他という意味、上の４つのカテゴリーにあてはまらないということなら違う言い回しがあるのではないか。あってしかるべきジャンルに防災があると思うので、防災とまちづくりなら分かる。
事務局：まちづくりに防災を入れているつもり。あまりにも広いかとは思っている。
委員長：全部で１７分類あるが、全部適用してしまうのも、あまりに細分化してしまい問題がある。まちづくりはマジックワードで何でもありというのもどうかと思うので、何を念頭においてまちづくりと表しているのかを意識して考えるのが重要ではないか。防災は重要な課題なので防災関係の団体も検討してもいいのではないか。
委　員：自治会は防災の核になるものなので、どこかのジャンルにあってもいいのではないか。
委員長：この分類は何かに載っていたのか。

事務局：①～⑤の分類は運営委員会設置規則に、団体の活動領域に配慮して委嘱するための区分としてある。
委員長：どういう構成で検討するのがいいのか。巨大化するのも困る。定員が決まっている。
委　員：ＮＰＯとかそれ以外の市民活動に対してゆめこらぼの存在意義がある。行政でもまちづくりはやっているので、それ以外のところでの活動をしているところを選ぶ必要があると思う。
事務局：選出に当たっては、今回退任の方の分野を頭に入れる必要があると考えた。
事務局：再任可能な方への依頼に関しては、事務局に一任して欲しい。新規選出に関しては次回再検討とさせて欲しい。次期委員長に関しては、現正副委員長と相談の上決めさせていただきたい。
委員長：他に意見がある場合、事務局に提案して欲しい。今のところは事務局案で了解ということでよろしいか。

４．そ　の　他

〇資料５について、事務局説明
事務局：前回もっと詳しい資料をとの要請があり改めて出した。
経費積算資料については、前回は事業ごとの合計での報告のみだったが、今回はその明細についての数字が加わった。科目明細は印刷費など科目ごとにまとめたもので、社会福祉協議会は科目明細をもとに予算を立てている。
委員長：資料の出し方を変えただけで、額に変わりはないので、特に問題なければ承認ということでお願いしたい。

１．次回運営委員会日程について
日時：１月１５日（火）１９時～２１時
会場：イングビル３階　第１会議室